

平成 30 年大阪府北部地震に対する日本赤十字社大阪府支部の対応について

日本赤十字社大阪府支部
平成 30 年 7 月 26 日現在

1 日本赤十字社大阪府支部の医療救護活動

(1) 災害対策本部の活動

6 月 18 日午前 9 時 30 分に日本赤十字社大阪府支部災害対策本部（以下「支部災対」という。）を設置し、併せて大阪府保健医療調整本部（以下「府医調」という。）に日赤災害医療コーディネーターチーム（以下「日赤 CoT」という。）と支部職員を派遣するとともに、支部災対に配置する日赤 CoT の派遣を要請した。

府医調の調査で被災地域である茨木市・高槻市で医療ニーズが少ないことが判明した。そこで、活動方針を医療救護活動から避難所支援や保健師支援に切り替え提案した結果、府医調から茨木市への支援要請があった。

19 日、茨木市保健医療センターに日赤 CoT を派遣し、活動の調整を行った。



図 1.支部災対「発災後、すぐさま今後の方針を確認する副本部長」



図 2.府医調「行政に集まった各医療機関と情報収集を行う日赤 CoT」

表 1.日赤 CoT と支部職員の派遣数

派遣先	派遣期間	日赤 CoT 数(班)	延べ人数(人)
府医調	6 月 18～22 日	1 [※]	10
	6 月 18～25 日	—	25 (支部職員)
支部災対	6 月 18 日	1	2
茨木市保健医療センター	6 月 19～21 日	1	6
合計		3	31

※大阪赤十字病院から派遣している。

日赤 CoT とは…

被災地の保健医療ニーズを把握し、都道府県保健医療調整本部における都道府県災害医療コーディネーター等と連携し、救護班の活動調整等を行うチームのこと。

(2) 救護班の活動

日本赤十字社大阪府支部では、発災初日（6月18日）から茨木市内の避難所に救護班を派遣し、避難所アセスメントや保健師支援を行った。

20日には、茨木市の保健師とともに茨木市内全74カ所の避難所アセスメントが終了し、避難所の集約・閉鎖に向けた方向性の助言、21日以降の巡回診療先として重点避難所の選定を行った。

21日以降は、日赤の近畿2府4県（以下「第4ブロック」という。）の救護班が重点避難所の巡回を行い、体調が悪い避難者を地元医療機関へ引き継ぐとともに、こころのケアなどを行った。

避難所の集約なども進み、茨木市の保健師のみで対応できる体制となったことから、22日をもって救護班の活動は終了した。



図3.茨木市保健医療センター「地元の保健師と巡回診療の方針を確認する救護班」



図4.避難所（茨木市公民館）「避難者の常備薬を確認する医師と看護師」

表2.救護班の派遣数

派遣先	派遣元	救護班数（班）	人数（人）
茨木市内の避難所	大阪府支部	5※	36
	滋賀県支部	2	14
	京都府支部	2	12
	兵庫県支部	2	15
	奈良県支部	2	11
	和歌山県支部	2	11
合計		15	99

※大阪赤十字病院から4班、高槻赤十字病院から1班派遣している。

(3) 災害ボランティアセンターの運営支援

発災して間もなく、各地の社会福祉協議会が災害ボランティアセンター（以下「災害 VC」という。）を設置した。当支部は、各災害 VC からの要請を受け、茨木市災害 VC に 6 月 21 日から、高槻市災害 VC に 6 月 23 日から、赤十字防災ボランティア（以下「赤十字防災 V」という。）及び職員が運営支援を実施した。7 月 2 日以降は、救護班同様に第 4 ブロックの支部に所属する赤十字防災 V も支援に加わった。赤十字防災 V は、各災害 VC において、ボランティアの受付やマッチング（被災者のニーズとニーズに対応できるボランティアを結びつける作業）などに貢献した。

以降、高槻市災害 VC は 7 月 21 日まで（22 日間）、茨木市災害 VC は 7 月 26 日まで（27 日間）支援を継続した。



図 3.茨木市災害 VC 「活動を終えたボランティアから活動報告を受ける赤十字防災 V」



図 4.高槻市災害 VC 「様々な団体と連携を取りながら活動する赤十字 V」

表 3.災害 VC への運営支援者数

派遣先	派遣元	赤十字防災 V (人)		赤十字職員 (人)		合計 (人)
茨木市 災害 VC	大阪府支部	55	65	11	11	76
	京都府支部	3		0		
	兵庫県支部	7		0		
高槻市 災害 VC	大阪府支部	42	51	9	9	60
	滋賀県支部	5		0		
	奈良県支部	4		0		
合計 (人)		116		20		136

2 救援物資の配布状況

日本赤十字社は、避難所などに避難されている方々に対して、救援物資（毛布、安眠セット、緊急セット）を配布している。6月18日から22日にかけて、高槻赤十字病院が病院近隣の避難所のアセスメントを行った際に、高槻赤十字病院の救護倉庫に備蓄している安眠セット155個、緊急セット96個を配布した。



図 5.避難所に届けられた救援物資



図 6.救援物資「緊急セット（左下）と安眠セット（右上）」

表 4.救援物資の配布数

配布日	配布先 (大阪府内避難所)	品目 (個)	
		安眠セット	緊急セット
6月18日	阿武野小学校・南平台小学校・土室小学校・西阿武野コミュニティセンター	70	60
6月19日	阿武山中学校・阿武野中学校・高槻第二中学校・今城塚公民館・郡家小学校・川西小学校	60	36
6月22日	桜台小学校・庄所コミュニティセンター	25	—
合計	12カ所	155	96

3 義援金の募集

日本赤十字社では、被災された方々の生活再建の一助とするため、義援金を受け付けている。寄せられた義援金は、大阪府に設置された義援金配分委員会を通じて被害状況に応じて按分され、全額が被災者に届けられる。

表 5.義援金受付・送金状況一覧

受付状況	件数	金額	備考
日赤全体	3,149 件	7,977 万 1,422 円	7 月 12 日時点
大阪府支部	158 件	339 万 2,184 円	7 月 25 日時点

赤十字活動資金の流れ



国内義援金と海外救援金の流れ

